

「ニーズなくなるまで」

台風19号の被災地支援 ボランティア続々

桐生災害支援ボランティアセンターのボランティアチームが、台風19号の被災地で泥かき・片付け作業を続けている。10月12日の被災からきょうで1カ月たつが、被災地では泥かき・片付けの人手を求め、声はまだある。同センターでは現地ボランティアセンターと連絡を取り、ニーズがなくなるまで支援を続ける計画だ。

桐生災害支援ボランティアセンターでは市民ボランティアを呼びかけ、11月2日から週末ごとに、足利市や佐野市といった近隣の被災地でボランティア活動に取り組んでいる。10日は7人が参加。佐野市社会福祉協議会に設けられたボランティアセンターを訪れると、秋山川上流にある葛生地区を流れる小曾戸川沿いの民家に移動し、庭に積もった土砂を取り除く活動に汗を流した。

氾濫した小曾戸川が運んだ土砂は、庭一面に厚さ数十センチも堆積。参加した高校生たちは重い泥をスコップですくい、一輪車に乗せて民家の門扉付近に積み



佐野市葛生地区の民家で泥かきをする参加者たち

上げた。住宅を管理する女性(82)は「10年がかりでつくった花畑が泥に埋まってしまった。ただ、近所にはもったいどい被害を受けた家もある。これまでボランティアの協力要請をしにくかった」と話す。

この日は若い世代の参加者も多く「本当に助かります」と、笑顔のぞかせた。参加者の高畑哲也さんと勝山朝日さん(桐生第一高1年)、上野拓真さん(同高2年)は「学校のチラシを見て参加を決めた。まだこんなに泥が残っている

は「すぐ隣のまちがこった泥をかきだしている状況になるなんて。協力すれば作業もはかどるはず」と、積も

った泥をかきだしている。由高センター長は「ニーズがなくなるまで協力を続けたい」としている。

とはと驚いた様子。田嶋桃子さんと川崎遙華さん(桐生女子高3年)

2019.11.12 次
桐生タイムズ